

1 学校の教育目標

自ら学び、自ら伸びる子どもの育成

～ふるさと九十九里からの主体的・協働的な学びを通して～

【目指す子どもの姿】

「かしこく、やさしく、たくましく」

かしこく（進んで学習する子ども）

やさしく（心やさしく、たすけあう子ども）

たくましく（心と体をきたえ、いつも元気な子ども）

2 本年度の重点目標・特色ある取り組み

- 1 教育的にニーズの把握と共有に基づく個に応じた支援体制を充実させる。
- 2 読書活動を充実させる。
- 3 主体的な活動と振り返りの場を設定し、自己肯定感を高める。
- 4 正課体育の充実と「外遊び」の奨励により、運動に親しませる。（生涯スポーツの基礎作り）
- 5 働き方改革の推進により、職員が心にゆとりを持って笑顔で教育活動ができる職場づくり。

3 具体的な評価項目の取組・達成状況

評価項目		結果	考 察
目標1 豊かな人間関係・ 基本的生活習慣	①学校生活を楽しく過ごすことができたか。	A	児童の95%（「がっこうにくるのがたのしい」）、保護者の97%が（「お子さんは明るく元気に学校に通っている」）に肯定的回答をしている。学習指導要領に示された教育課程に沿って順調に学校運営がなされていたこと、各学年の学級経営がねらいを明確にして計画的に行われていたこと、なぎさの運動会、秋季大運動会、マラソン大会、九小祭・PTA バザー、縄跳び大会、全校かくれんぼなど魅力的な行事が行われたためと捉えている。
	②いじめがなく、友だちと助け合って生活しているか。	A	児童の95%が「せんせいは、いじめのないがっこうにしようとしている」と答えている。いじめのない集団作りを目指し、定期的なアンケートの実施やスクールカウンセラーの活用、個別の相談を行う教育相談の設定を行った。いじめを含む友達とのトラブルについて適切に対応したので保護者の86%が学校の取り組みを肯定的にとらえている。しかし、友人関係に悩む児童も見られるため、学校全体で更に注意深く児童の人間関係を見ていく必要がある。また教職員で情報共有をしていく必要がある。
	③基本的生活習慣は、身に付いているか。	B	保護者の79%は「お子さんは学習用具の準備や意欲など、基本的な学習習慣が身についている」という問いに対してやや低めな肯定的な回答をした。また教職員の67%も「児童は学校や社会のルールを守り、我慢できる」に対して低めな肯定的な回答であった。児童の適切な生活習慣の獲得を次年度以降重点に取り上げていきたい。

評価項目		結果	考 察
目標2 学力の定着・ 向上	①授業はわかりやすく、学習したことを理解することができたか。	A	千葉県の「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の特に「見出す」場面で学習問題を意識して取り組んできた。そして個別最適な学びと協働的な学びを両立させるために全教職員が授業力アップに努めている。その結果「じゅぎょうはわかりやすい」と答えた児童は94%となっている。保護者の86%も「お子さんは計算・漢字など学年相応の基本的な学習の力が身につけている」に対して肯定的な回答をしている。今後は家庭学習の習慣化が図れる取り組みを進めていく必要がある。
	②教師は一人一人に目を配り、わかりやすい授業を心がけているか。	A	児童の98%が「じゅぎょうでわからないことについて、せんせいにしつもんしやすい」に対して肯定的に回答している。本校が一番多い学級で23名であり、また町の職員の学習サポーターや

			県の小学校専科非常勤講師が配置され、授業中のサポートを行いやすい。さらに町の職員として支援員も2名配置され、配慮が必要な児童への支援も行っている。保護者の93%も「教職員は一人一人を大切にして誠意をもって教育活動に取り組んでいる」に対して肯定的である。今後も小規模校の良さを生かし、一人一人を大切にする授業等を心がけていきたい。
	③授業において、学習のルールが身に付いているか。	B	教職員の73%は「児童は人の話を静かに聞き、自分の考えをはっきりと話すことができる」に対してやや低めな肯定的な回答をした。一方、保護者は「お子さんは人の話を静かに聞き、落ち着いて話ができる」に対しては91%が肯定的な回答をしている。どちらにしても学力向上には学習ルールの定着が基本である。次年度以降も、学力向上を見据えて学習ルールの定着に尽力していきたい。

評価項目		結果	考 察
目標3 健康・安全教育	①ルールの遵守や健康・安全に対する意識を持って生活しているか。	A	86%の保護者が「お子さんは家庭や社会のルールを守り我慢ができる」に対して肯定的な回答をした。また教職員も「児童の生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てている」に対して93%が肯定的にとらえている。ワンポイントも含む避難訓練、毎週の集団下校での講話、食育、歯磨き教室、外部講師を招いての薬物乱用防止教室、スマホ安全教室などの効果が表れている。学校は安全、安心が守られてこそ、教育活動が展開できる。職員の安全へのさらなる意識の向上を図り、児童へも健康、安全への指導を継続していきたい。
	②学校は、学習しやすいように整備されているか。	A	保護者の「学校は教室や校庭などは、学習に適した環境になっている」に対して98%、教職員の「本校は現在ある施設・設備を有効に活用している」に対して100%が肯定的な回答をしている。校舎は古いながらも「なかよしホール」など広いスペースがあったり、空き教室もあったりするので学習を展開しやすい。また教職員も掲示物を工夫し、学習環境を整備している。継続して取り組んでいきたい。

評価項目		結果	考 察
目標4	①積極的に情報を発信し、家庭や地域との連携を深めているか。	A	保護者94%が「学校は学校・学年だより等により教育目標や教育活動をわかりやすく伝えている。」に対して肯定的な回答をしている。学校だより、学年だより、メール配信等により積極的に情報発信をしている。また地域にも学校だよりを

家庭・地域の連携			回覧して、教育活動への理解を求めている。また焼き芋体験、めざし作りなど地域の力を生かした活動も展開している。今後も継続していきたい。
	②PTA活動は充実しているか。	A	なぎさの運動会、秋季大運動会、校内マラソン大会、九小祭り・バザーなどの学校行事への協力に加え、PTA 交通当番や PTA 読書ボランティアを通した読み聞かせ、及び PTA バレー、PTA レク大会へ積極的に参加している保護者が多い。 PTA 本部役員へ積極的に立候補する方もいる。しかしながら、家庭の事情で参加しにくい保護者もいる。バランスを取りながら、無理のない範囲での PTA 活動を模索していく必要がある。

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	考 察
A	10項目のうちA評価が8項目、B評価が2項目であり、総合評価をAとした。 本年度の重点目標で特に力を入れたのが、読書活動の充実である。読書活動の充実を目指して、読み聞かせの推進、読書貯金の取り組み、校長の繰り返しの講話を行ってきた。その結果、昨年同時期と比較して、8.4%の上昇も見られている。今後も読書週間が身につく取り組みを講じていく。 正課体育の充実や外遊びの励行については、特に長縄跳び大会に向けた練習で子どもたちは積極的に練習を行い、大会でも好記録を連発した。また保護者にも公開したことで学校の取り組みを紹介する機会にもなった。 一方、家庭学習の習慣の定着について保護者も、教職員も、今一步と感じているので、学力向上に向け、家庭学習の励行に力を取り入れていく必要がある。 保護者に向けた学校評価アンケートでは概ね肯定的な回答を寄せられているが、個別の意見に目を通すと、批判的な文言も散見される。中には学校の取り組みでは対応できないものもあるが、情報発信等を積極的に行い、児童と保護者、教職員と地域がともにある学校づくりをしていきたい。

5 今後の取り組み

項 目	具体的な取組方法
学力の定着 (基礎・基本の定着)	①「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用 ②個に応じた指導の推進 ③電子黒板、タブレット等のＩＣＴ機器の効果的な活用 ④家庭学習重点週間の実施 ⑤学力向上推進委員会を活用しての職員の共通理解 ⑥読書貯金、読み聞かせの励行 ⑦九十九里タイムの実施
魅力のある教育活動	①外部人材の活用 ②学校行事等の充実（なぎさの運動会、九小祭） ③校外学習の充実 ④朝の読書の充実（読み聞かせを含む） ⑤ロング昼休みの実施 ⑥たてわり班活動の推進
仲良く助け合える 友だち関係づくり	①全教育活動を通しての道德教育の充実 ②外部との連携（町教育委員会、町福祉課、児童相談所、東上総教育事務所、ハートフル東金） ③体験活動の推進（芋づくり、焼き芋体験、めざし作り） ④たてわり班活動の工夫 ⑤おしえてカードを活用しての相談活動及び一人一人の児童との教育相談 ⑥ＳＣ・ＳＳＷ・学校訪問相談員による相談活動の充実 ⑦相談ボックスの活用

6 研修活動、働き方改革について

- （１） 本校は、今年度、研究教科を定めず全教科を対象とした。研究主題を「全ての児童が『分かる・できる』を目指した『九十九里タイム』～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた日常実践～」とした。各教職員が、児童の基礎的な学力を高めるための取り組みをそれぞれ行い、効果の検討をし、まとめとした。また若年層を中心に相互授業参観、校内のベテラン層を講師としての講話など研修の方法も工夫してきた。道德においては、千葉大学附属小学校で長年、道德の研究をしてきた八木橋朋子先生をお招きし、役割演技などの実践例を学んだ。今後も、職員の指導力向上を図り、効果のある授業、教育活動を展開できるように精進していきたい。
- （２） 働き方改革については、校長のリーダーシップのもと、仕事の効率化、削減、時間を意識した働き方、退勤の呼びかけ、毎月の勤務時間のフィードバック等に取り組んだ。その結果、超過勤務時間８０時間を超えた職員は０人。４５時間を７か月になった職員も０人である。職員に時間的なゆとりが出た結果、児童一人一人に対して丁寧に対応する姿が増えてきた。来年度は学校徴収金を原則口座振り込みとすることで、さらなる働き方改革も考えている。また不祥事根絶についても毎月、一回以上研修を行ったり、声を掛け合ったり、掲示物を工夫したりしてきた。今後も不祥事根絶を実現するための手立てを推し進めていく。